

新しい世代から 宣教師を派遣するために

「主をほめ歌え。主はすばらしいことをされた。
これを、全世界に知らせよ。」
イザヤ書 12章5節



OMF 日本委員会・総主事
菅家庄一郎

2014年度のJOMA会長として奉仕をさせていただいております菅家庄一郎と申します。

JOMAの目的は、「日本の福音的諸教会の海外宣教部門、並びに、そうした諸教会を背景とした宣教団体が、共通の領域での協力をはかり、将来のさらに効果的な海外宣教のあり方を求めることを目的とする」と規約にあります。JOMAの協力関係が祝され、JOMA加盟団体を中心に、日本の若い世代の中から続いて宣教師になる人材が起こされていくことを願っています。そのための具体的な提案をさせていただきます。

まず、教会学校に来る小学生・中学生に帰国中の宣教師の証や報告をぜひ聞かせてください。現代日本では、以前にもまして早い時期に、ある程度の進路を決めるように学校で指導される傾向があります。小さい時に海外へ行き福音を伝えるという召しを受けた人は、それに向けての準備を十分し、20代か30代前半で宣教師として派遣されることも可能でしょう。宣教師としての召しを受けるのに若すぎることはないのです。

次に、毎日曜日の礼拝の中で、宣教地のための祈りを捧げるのはどうでしょうか。日本の教会の礼拝には「世界」を感じさせるものがないと言われた方がいます。世界宣教を何か特別なものにしてしまわないためにも、毎日曜日の礼拝の中で、たとえ短

くても他国の人々のために祈ることによって、世界宣教が身近なものになるのではないのでしょうか。

最後に、教会に外国人の方が来やすいように工夫するのはどうでしょうか。通訳の奉仕者を立てたり、いろいろな言語の聖書やトラクトを用意するのもよいでしょう。日本語を教えるプログラムを提供したり、日本の文化・習慣が分からず困っている人を助けることも大切ではないでしょうか。外国から来た人々にこのように具体的な愛を示すことは、私たちが思っている以上に大きな証になります。グローバル化の進む現代、人は仕事・教育・安全を求めて移動します。こちらから出て行かなくても、海外から日本にくる外国人はこれから増加していきます。外国人を受け入れ、愛を示していくことも世界宣教の一部です。

今年度JOMA役員会では、毎月15日前後に、JOMA加盟団体のために祈っていきます。特別な祈祷課題がありましたら、ぜひ役員までお知らせください。主が日本の若い世代の中から宣教師を起こしてくださるよう共に祈り協力していきましょう。

2014年東京「カイロス」実施レポート

アンテオケ宣教会 主事 松崎ひかり

世界50ヶ国以上の様々な教会で実施され、何万人もの信徒を宣教の使命のために立ち上がらせている、宣教チャレンジコース「カイロス」を、5月19日から6月16日までの毎週月曜に、お茶の水聖書学院の教室を借用して実施しました。「カイロス」は、9セッションで、神のミッション、イスラエルの民、メシア、世界の宣教ムーブメント、宣教の戦略、未伝民族、異文化理解、世界大の宣教協力等について、講義ビデオ、テキスト読解とワークシート記入、ディスカッション、祈り、特別活動などを通して学ぶものです。



今回は平日の9:30～16:30という設定だったため、「受講したいがスケジュールが合わない」という声もあり、受講生は4人でしたが、1日2セッションの授業と宿題をこなし、最終日にはオプションのファシリテーター・トレーニングも全員受けて終了しました。

関東には実施に必要なヘッドファシリテーター（HF）の有資格者がいないため、関西からHFの山下光宣教師が通い、福田崇先生（日本ウィクリフ）、永井敏夫先生（J. Clay House）、松崎ひかり（アンテオケ宣教会）の各ファシリテーターが共に奉仕しました。また、一定人数が必要な特別活動には、お茶の水聖書学院教務の福井誠先生とJCFNの後藤満喜主事もご協力下さいました。

9月に大阪で行われるHFトレーニングを経て、HFの有資格者が増え、さらに受講生の中からファシリテーターとなれる方々が増えれば、実施に必要な人材も整ってゆくでしょう。教会内での学び、教会や一般会場での公開講座、4泊5日の合宿集中コースなど、やり方も工夫次第です。日本でもこのコースを通して宣教への理解が広がり、日本の教会が主の招きに応じて、全世界の宣教にさらに積極的に参加してゆくことを期待します。

受講生の感想

宣教師を支える立場から

5回にわたり、多様な宣教の分野を学ぶ素晴らしい時間でした。私は宣教師を支えたい者として受講しましたが、宣教師の宣教地への思いや、準備、現地での戦い等を学ぶ中で、宣教師のビジョンと、支える者、宣教会と、支える教会の祈りの大切さも、沢山教えられました。また聖書の旧・新約時代を経て、今に至るまで、世界で繰り広げられた宣教の働きも詳しく学び、歴史の中に見る主の宣教の働きに大いに励まされました。同時に、私も海外で宣教され、今ここに生かされている感謝と、主の憐れみを深く思う時でした。与えられた宣教の思いを大切に、世界で働く宣教師の方々の為、また世界で起こっている様々な事へ、心を傾け祈っていきたくと思います。

関谷典子（浦和福音自由教会信徒、アンテオケ宣教会 実務協力者）

地球規模の、み心を知るための第一歩

「学びは素晴らしいけれど、厳しい5回になると思うよ。」と言われて始めた「カイロス」は、初回からあまりに深い学びに、消化できない、頭の整理ができないと、内心焦りました。重みのあるテキストの内容以外にも、デボーション、祈り、DVD鑑賞、ディスカッションなどがあり、予想以上に厚みのある授業でした。ワークシートもテキストをじっくり読まないとは回答できないような設問で、その全てに自分自身の適応や考えなど、具体的に書くようになっていました。後半では、アクティビティを通して異文化を体験。何度も目から鱗が落ち、新しい気付きも沢山ありました。学んだことをどう自分の中で消化し、実際に生かしていくのか、今後が問われています。私自身は、再献身を問われた思いです。宣教に重荷がある方はもちろん、ない方にも、神様が願っていらっしゃる地球規模の、み心を知るための第一歩として、ぜひ多くの方々に学んでいただきたいコースです。

高山嘉津子（アンテオケ宣教会 主事）

宣教はどこか遠くにあるものではない

私はカンボジアで宣教師として働いている頃、「カイロス」というのを聞きました。フィリピンで宣教の啓発・動員をしている方から、「まず教会等でカイロスコースを受けて、そこから自発的に宣教の啓発や動員をする多くの方が起こされていった」と聞き、人々に宣教の業に携わろうとする思いを持たせる「カイロス」とは、どのようなものかという思いと、現在私のしている宣教の啓発・動員の働き助けになればと、今回受講しました。コース全体を通して、神様は、宣教の神様であり、神の子となった私たちを通して、失われた魂に働いておられる。また、誰かではなく、私たちみんなを、この宣教の業に召しておられることを、思い起こさせる内容でした。そして、宣教は、どこか遠くで起こっているハードルの高いものではなく、今いるところで携わっていきける自分が関わるべきものとして捉える視点を与えてくれ、主の思いを知り、共に担っていきたいという思いにさせるものでした。また私自身の今のあり方、歩み方へも、多くのチャレンジを受けました。

西村信恵（OMF インターナショナル日本委員会 国内主事）

歴史の中に生かされていることを再発見

「カイロス」の存在を知ったのは2年前で、その頃は、まだ日本にはなかったもので、10年以内位に受講出来たら良いなという程度に思っていたのですが、それから2年もしない内に、東京の通える範囲内で開催されることを知り、非常に驚きました。コースでは、回を追う毎に、神様の歴史の壮大なスケールを思い起こしました。創12：1でアブラハムが、「あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地に行きなさい。」と言われ、行き先も分からず、出て行ったのは、アブラハム自身を祝福し、全ての民族も彼によって祝福するという神のご計画でした。そこから歴史は脈々と刻まれ、使徒1：8で聖霊が下ると、弟子達は力を受け、福音という祝福をもたらすべく、爆発しそうな力を持って出て行きます。そして、それは、マタイ24：14の「この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから終りの日が来ます。」というゴールに向かっており、その過程の中で2014年の今、私達も生かされているという感動を新たにさせられました。

松岡知子

（キリスト合同神学校 修士課程学生、
宣教師志願者）



アジア・メンバーケア・プログラムの紹介

今年、2014年から、北アメリカで行われているメンバーケア・プログラムがアジアに於いても受講できるようになりました！



Dr. Roni Pruitt

北アメリカのメンバーケア・プログラムは、10年前に、アメリカのコロンビア・インターナショナル大学に於いて、中国と日本で宣教師として奉仕した経験を持つ Dr. Roni Pruitt によって始まりました。

アジア・メンバーケア・プログラムは、アジアのいくつかの国の神学校を巡回して授業をしています。教授陣はアメリカ人とアジア人です。学びと訓練の焦点は、宣教地で奉仕している宣教師のためであり、また、カウンセラーや心理学者として宣教師のために奉仕したいと思っている人々のためです。今年度は15名の学生が学んでいます。修士号と博士号が取得できるようになっていますが、学位を取得する人のためだけでなく、ただ学びたい人も学生として授業を受けることができます。来年度は、5月に最初の授業がフィリピンのマニラにあるアジアパシフィック神学校で行われます。2015年5月24日（日）の5時に開始し、30日（土）のお昼に終了します。

日本で宣教師として奉仕したことがあり、日本を愛している Roni 教授は次のようにコメントしています。「アジアはこれから宣教師を送ることをリードしていくことになるでしょう。私たちは宣教師を送り、宣教師が召命を全うして行くことができるようにケアしていく必要があります。正しいケアをすることによって、宣教師は長期にわたって奉仕することができ、世界の教会に変化をもたらすことができます。日本人の宣教師は、母国の文化と言語を理

JOMA 宣教師ケアと子女教育 専門委員
日本ウィクリフ聖書翻訳協会 メンバーケア担当主事
土井圭子

解する日本人によってケアされることが必要で、そのケアの中で宣教師は心に思っていることを分かち合うことができます。日本人の宣教師に、質の高いケアを提供するため、メンバーケアの訓練を受ける日本人を神様は求めておられる、と私は信じます。」

日本人で、宣教師としての経験があり、宣教師のケアをすることのできる人々や、宣教師ケアを専門的に行うメンタルヘルスの専門家たちが育ってほしいと思っています。そのためにも、日本人も、このコースを受けて、訓練されたメンバーケアの働き人になることができるようにと願っています。また、宣教師自身が自分のケアをしていく（セルフケア）ためにも、このような学びは有益です。アジアで訓練を受けられる機会をくださった神様に感謝します。

コースの内容など詳しい情報を知りたい方は Rachel Weaver : rachel.weaver@mailbox.ciu.edu にご連絡ください。

※メンバーケアとは、宣教師ケアのことです。



メンバーケア・プログラムを提供している、フィリピンのマニラにあるアジアパシフィック神学校 (Asia Pacific Seminary)

道はヒマラヤの麓へ

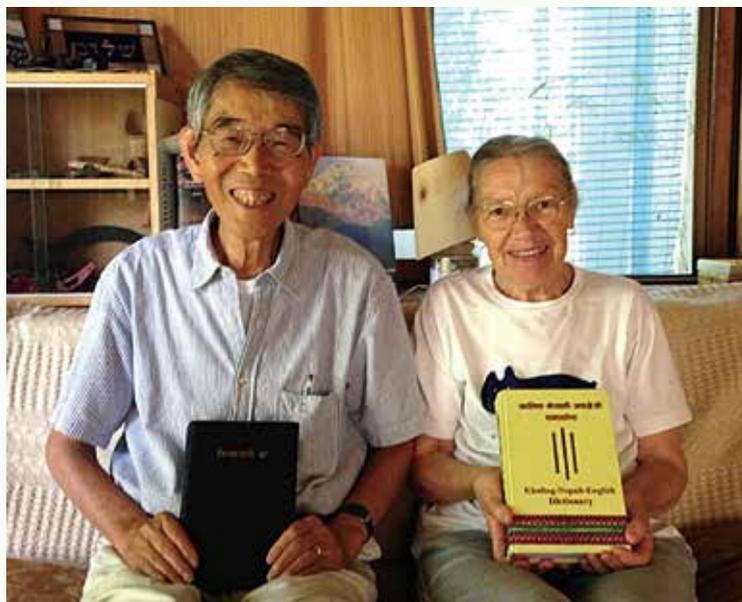
日本ウィクリフ聖書翻訳協会

鳥羽季義

私達は、1970年に南アジアへ遣わされました。ヒマラヤ山脈のエヴェレストの南の山岳地帯で、カリンの人々の住む地域でした。主の霊が其の上におられました。

一歳にならない息子連れてきてカリンの村に入ると、初めはスパイではないかと疑われました。しかし、しばらくすると、昔日本人と戦った退役軍人が「スパイが赤子を連れて来るはずがない」と言い、人々は安心して私達を見に来るようになりました。4畳程の私達の住み家には、もの珍しそうに私達を見に来る人が絶えませんでした。そして危険はないとわかると、私達に話しかけ始めました。

Tya maang? (これ何)、息子のおもちゃを見て言われた言葉が初めて聞いたカリン語でした。子供達の話すことに耳を傾けても、皆目わからない日々が続きました。しかし、Bangpe (よい)、Mubangpe (よくない) から、Mu- は否定形と知るなど、そうこうするうちに段々と言葉がわかってきました。伝道できるほどになるまでに、2年以上かかりました。何しろ、この言語の教科書も辞書も無かったのです。ゼロからの挑戦。これは、良い勉強の機会となりました。カリン語教師を雇い、集中して学びました。家内は私より語学に長けていて、子育てに忙しい中どんどん話し、息子も友達と話し始めました。私は、1973年のクリスマスに、初めてカリン語でイエスの誕生につい



カリン語聖書と辞書を手にする鳥羽季義・イングリット宣教師夫妻

て話しました。しかし、人々の反応は、思っていたのと違っていました。ある長老は、イエスが一人っ子だと知り、家族計画を勧めていると思ったようです。まだ言葉が足りないと、必死で勉強しました。知る限りのカリン語で、主イエスが来られ、福音を語ったことを伝えましたが、1984年まで、カリンの人々にはなかなか福音が伝わらないと思っていました。しかし、主の霊が人々の上におられました。

カリン語教師の助けでマルコ伝を訳し、印刷して村に持って行きました。家主はそれを読み始め、一年後死の床につきました。彼は死ぬ前に最後の言葉として、自分はあの日本人が話してくれた天国へ行く、と語ったそうです。その後、1984年に3名の若者が信仰告白し、やがて洗礼を受けました。それからは燎原の火のように毎年信じる人達が加えられ、1990年に最初の教会堂が建ち、1994年にはカリン語新約聖書出版、そして、2011年にはついにカリン語聖書全巻が出版され、村の諸教会に届けられました。その後、カリン語辞書もでき、2014年、第12番目の教会堂の献堂式が感謝のうちに執り行われました。

このように、神の国が広まっているのを見えています。これからも、まだ福音が届いていないところに伝えようと祈っています。日本の諸教会と皆さんのお祈りに感謝します。



鳥羽宣教師一家とカリンの人々

世界宣教関係イベント情報

メンバーケア・ジャパン

- ◆ 次回のメンバーケア・ミーティング
日時：2014年10月27日(月) 13:00～16:00
場所：日本ウイクリフ聖書翻訳協会事務所
内容：ストレスマネジメント その2

日本ウイクリフ聖書翻訳協会

- ◆ ウイクリフ・カフェ関西
日時：2014年11月8日(土) 13:30～16:00
場所：北浜スクエア
- ◆ ウイクリフ・カフェ九州
日時：2014年11月15日(土) 13:30～16:00
場所：福岡福音自由教会
- ◆ ウイクリフ・カフェ関東
日時：2015年1月10日(土) 13:30～16:00
場所：日本ウイクリフ事務所
- ◆ ネパール訪問旅行
日程：2015年3月5日(木)夜～14日(土)朝
- ◆ フィリピン宣教地体験旅行
日程：2015年3月16日(月)朝～30日(月)夜

OMF インターナショナル

- ◆ 「祈りの旅」
日時：2015年3月10～20日
場所：東南アジアで宣教の自由のない国(1国)
参加費用：約15万円
締め切り：2014年12月中旬
お問い合わせ：西村信恵主事
(jp.hcsac@omfmail.com)
- ◆ 150周年記念宣教大会
テーマ：温故創新ー Remember, Rejoice, Renew
日時：2015年6月6日～7日(札幌)、9日(仙台)、
11日～13日(東京)、14日(大阪)、
19日(名古屋)、21日(福岡)の予定
講師：OMF総裁 パトリック・フン師、ジェニー・
フン師、OMF日本フィールド デビッド・ファー
ガソン師

アンテオケ宣教会

- ◆ インドシナ・学びの旅
期間：2015年3月19日～25日
費用：16～18万円 定員：8名
随行者：森敏主事 申込締切：10月末日
詳細はアンテオケ宣教会事務局
jimukyoku@jantiochm1977.net へ
お問い合わせ下さい。

東洋ローア・キリスト伝道教会

- ◆ 第13回 アジアろうあクリスチャン宣教大会
テーマ “ことばは人となられた—ヨハネ 1:14”
日時：10月21日(火)～24日(金)
場所：パシフィック・グリーン・ベイ・ホテル【台湾
新北市】
主催：アジアろうあクリスチャン宣教大会実行
委員会(台湾)
後援：アジア・デフ・クリスチャン・フェローシップ
<http://taiwan13adcmc.iwopop.com/>

加盟団体リスト

- OMF インターナショナル日本委員会
- OM日本
- アンテオケ宣教会
- イムマヌエル総合伝道団 国外宣教局
- チャーチ・オブ・ゴッド 国外宣教部
- 基督兄弟団 海外宣教委員会
- 在欧日本人宣教会
- 東京フリー・メソジスト教団 宣教委員会
- 東洋ローア・キリスト伝道教会 海外宣教委員会
- 南米宣教会
- 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 海外伝道部
- 日本イエス・キリスト教団 宣教局 海外宣教
- 日本ウイクリフ聖書翻訳協会
- 日本バプテスト教会連合
- 日本ホーリネス教団 宣教局 国外宣教

JOMA 加盟団体募集中!

- 協力会員・団体会員を募集しています
- 会費年額 団体会員 60,000円
- 協力会員 12,000円
- 詳しい手続きについてはお問い合わせください。

■■■ JOMA 通信 ■■■

- 発行所：JOMA (海外宣教連絡協力会)
- 住所：〒101-0062 東京都千代田区
神田駿河台2-1 OCCビル内6F
- メール：jomaofficekanda@gmail.com
(電話はありません)
- 発行者：菅家庄一郎
- ホームページ：http://joma.hope8.net/
- 郵便振替(口座名義：海外宣教連絡協力会
口座番号：00160-7-106631)